

平成29年度 宮崎市立赤江小学校 学校評価書

※自己評定の欄は4段階で評価し、数字を記入しています。(4…80%以上、3…50～79%、2…20～49%、1…0～19%)

学校経営ビジョン
 教職員がそれぞれの職務における専門性を発揮することにより、学校の教育力を高め、学校の教育目標「心豊かで、知性をそなえた、体のじょうぶな子どもの育成」を実現する。

重点目標	達成手段及びゴールイメージ	評価項目	自己評価			学校関係者評価	
			評価	成果・課題等	改善等	評価	学校関係者評価委員会
1 確かな学力の向上を図る教育の充実	① 新学習指導要領の目指す学力に係る研究の推進	新学習指導要領の目指す学力のため、同僚性を活かした研修を行い、実践的な指導力の習得に努めることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の教職員で、授業を見合う活動を行ったことで、授業力向上への意識を高めることができた。 ・子どもたちが「分かる・できる」と感じる授業への改善を図った。 ・特別支援教育、特別な教科「道徳」、外国語活動・科等の研修を充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の完全実施に向けて、今後も研修を深めていく必要がある。 ・年間指導計画や教材・教具の整備と実際の指導方法の研究を進めていく必要がある。 ・同僚性を活かした研究をさらに進めていく。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の先生方で授業を見合う活動をされているのはとてもよい取組だと思います。継続してほしいと思います。 ・「教え合い活動」は教える側も教わる側もいろんな気付きがあり、お互い刺激になるのでよいと思います。理解できないときは、回りの友達でも先生でも質問するとよいと思います。 ・全てで個人差があらわれてきますので難しいでしょうが、学習意欲を引き出すことが大事かと考えます。 ・家庭と連携して、学習の喜びを味わえるような指導がほしいものです。その点では、一定の成果に結びついているものと評価できます。 ・意識→改善→充実、取組の継続を期待しています。 ・小中学校の先生方で情報交換などされており連携を深められているのがわかります。 ・小中連携をさらに加速発展させて積極的に取り組んでいただきたい。
	② 児童の活用する力を高める学習機会の拡充	児童の活用する力を高めるために、学校生活の中で発言・発表する機会を豊富に設けることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・「教え合い活動」を授業に取り入れ、学力向上を図ることができた。 ・発表しやすい雰囲気づくりやペアやグループでの話し合いを取り入れるなどして、児童の発表への意欲を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの活動を授業にどう位置付けていくか、単元ごとにきめ細かく計画していく必要がある。 ・より多くの児童が自信をもって意欲的発表できるよう、取組の継続が必要である。 		
	③ 児童の主体的な学習意欲の醸成	児童の主体的な学習を実現するため、家庭学習を含めた望ましい学習習慣と基本的な学習のスキルを定着させることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が協力し、児童が学習に主体的に取り組むようになっており、家庭での学習習慣が身に付いている。 ・学年で教材研究をしたり音読の家庭学習について共通実践をしたりして、学年内で共通実践ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きいので、個別の指導を丁寧にしていく必要がある。 ・学校からの課題については、児童が家庭で取り組みやすいようなものに工夫することで、学習にしっかりと取り組ませることができるようになる。 		
	◎ 小中連携	児童の学力その他自立に必要な資質を育成するため、小中連携した教育に努めることができたか。	2.1	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に小中学校で合同で研修会を行い、情報交換や共通理解を図ることができた。 ・特別支援教育について、連絡会や学習会を行い、連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策やいじめ対策など、小中学校で連携できるものを検討したい。 ・卒業に向けて中学校との連携を深めていく必要がある。 		

2 豊かな心を育む教育の推進	① 人間関係の把握と望ましい人間関係の醸成	望ましい人間関係の醸成を図るために、児童の人間関係の把握に努め、積極的な生徒指導を推進することができたか。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだんの児童の様子をよく観察し、気になる言動等があった場合は児童と話をするなどして、問題の未然防止に心がけた。 ・教職員全体で情報を共有するよう心がけた。そのため、個々の事案について迅速にチームで対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のアンケートや教育相談の実施方法を工夫し、いじめ等を早期発見できる体制づくりをさらに進めていく。 ・児童と遊んだり十分話したりできる時間を確保し、積極的な生徒指導を進めたい。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが困ったときにしっかり話を聞いて早目に対応して下さっているの、ありがたいと思っています。今後も引き続き指導をお願いします。 ・情報の共有は大事だと思います。チームで対応して、問題の未然防止が図られていることは、評価できます。 ・下校指導では、元気にあいさつしてくれる子どもたちがたくさんいて嬉しい限りです。 ・人づくりをさらに充実させて、生活・学習指導に活用いただきたい。 ・社会性の育成、社会生活の基礎づくりには地域と連携した取組が効果的ではないでしょうか。 ・道徳の授業が面白く楽しくなるような工夫をたくさん力を入れてほしいと思います。
	② 規範意識の定着による社会の基礎の育成	規範意識を高め、社会性を育成するため、清掃、あいさつや言葉遣い、廊下歩行など基本的な生活習慣の指導の共通実践に努めることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間に教職員で計画的に巡回指導を行い、無言清掃等の定着に努めた。 ・校内でのあいさつは全体としてよくできている。あいさつや適切な言葉遣いができていない児童にはその都度指導を行うことができていた。 ・昼休みの終わりなどに教職員が廊下に立ち、廊下歩行の指導や見届けをしっかりとっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無言清掃がさらに徹底できるように、手立てを講じていきたい。 ・学校でのあいさつはできるが、地域ではあいさつが十分できていないようだ。地域でもしっかりあいさつができる児童を育成したい。 ・廊下歩行など重点項目を絞り込み、指導の徹底と見届けを行いたい。 		
	③ 自立の基礎となる適切な判断力及び実践意欲の育成	社会生活を営む基礎となる判断力や実践意欲を高めるため、学校行事や児童活動、その他の教育活動で児童が自ら活動する機会を設けることができたか。	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、高学年がリーダーシップを発揮し、それぞれの役割に責任をもって取り組んでいた。 ・図書委員会が行った「図書館まつり」では、委員会の児童が自分たちで考えて活動した。計画的に準備し成功させることができた。 ・学級における係活動等においては、児童同士が助け合ったり協力したりして、学年に応じた活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の後などに自分をふり返らせ、自分の役割や責任について考えさせるようにする。 ・学級単位でも、児童が取り組みやすい活動を考え、実践させるようにする。 ・児童が自ら取り組む活動を積極的に仕掛け、児童に達成感を味わわせるようにする。 		
	◎ 特別の教科「道徳」の研修	特別の教科「道徳」の研修を充実させ、本格的実施に備えることができたか。	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に、講師を招聘しての研修を実施し、評価の方法等について学ぶことができた。 ・1月に特別の教科「道徳」の研究授業を実施し、実践レベルでの研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での評価等、実践レベルでの研修を進めていく。 ・次年度の完全実施に向けて、年間指導計画や別葉等の整備、通知表の形式等の検討を進める。 		

3 たくましい 体づくりの 推進	① 体力向上のための指導の充実	児童の体力を向上させるため、体力テストの結果を踏まえた体育科の授業の改善に努めることができたか。	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を踏まえ、少なくともあったが学年・学級での取組につなげることができた。 ・児童に体力テストの結果を知らせることはできたが、分析をもとにした学校全体としての取組としてはまだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストのデータを分析し、その結果をもとにした体育の授業改善に努めたい。 ・強化すべき観点について、年間指導計画に反映させるようにして、計画的に体力向上に取り組む。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手な子どもが何か興味をもって授業に参加できればよいと思います。 ・健やかな成長の基礎となる取組なので、さらに充実いただきたい。 ・体力や食などは、家庭での対応が大切だと考えます。その点で、便りなどで取組を知らせ、啓発に力を入れていることがわかります。効果があらわれることを期待します。 ・食に関する指導は大事なことです。食品ロスの問題も大きなことだと思います。 ・弁当の日の取組も大いに賛成です。 ・先生方もお忙しいと思いますが、学級通信や栄養だよりではしの正しい持ち方を紹介するようなことをするとよいと思います。 ・食育はとっても大切なことなので、お弁当の日の取組を続けてほしい。 ・取組を今後も継続して進めてほしいと思います。
	② 健康・衛生・安全につながる基本的な生活習慣の定着推進	健康・衛生・安全に関わる基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発に努め、あわせて健康診断後の治療啓発を進めることができたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会の取組の中で、「早寝・早起き・朝ご飯」の実践を家庭と連携して行うことができた。 ・健康診断後の治療については、学級通信等で保護者の意識を高めてきたが、治療については家庭によって取組の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の学校保健委員会と学級懇談会等を生かして、今後も「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を進めていく。 ・歯の治療率向上に向けて、家庭と連携していけるよう、手立てを講じたい。 		
	③ 食に対する理解・望ましいマナー指導を含む食育の充実	食に対する望ましい理解を深めるために、学級活動や保健その他の指導を推進することができたか。	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を中心にして、学年、学級単位で、発達段階に応じた指導ができた。 ・バランスの取れた食事の指導のような栄養面だけでなく、食事のマナーが十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携した食育の指導をさらに充実させていく。 ・はしの正しい持ち方や食器を持って食べる指導等、食事のマナーについての指導にも力を入れていく。 		
	◎ 「子どもが作る弁当の日」の充実	児童の食に対する関心を高めるため「子どもが作る弁当の日」の充実に努めることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、3年目の取組となり、回数を1回ふやした。親子で取り組む家庭もふえてきた。また、栄養教諭が食育だよりで児童の取組を紹介するなどして、啓発を図ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では、家庭科の学習と連動させるなど、取組がさらに充実するようにする。 		

4 特別支援教育の視点に立った教育活動の推進	① 個々の子どもの特性に応じたきめ細かな配慮・支援	特別な教育的支援を必要とする児童の学校生活を充実させるため、組織的に連携のとれた指導・支援が行えるよう校内体制の整備に努めるとともに、関係機関との連携も推進することができたか。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に組織的な支援ができた。 ・拡大ケース会議の実施や日々の相談などを通して関係機関と連携することができた。 ・全職員で情報を共有するようにし、保健室や通級とも連携を図り、児童を支援することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関とも連携し、検査結果や専門家の見解などを参考に、個に応じた校内の支援体制を整えた。 ・個別の指導計画の整備と活用に一層努める。 	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが相手を思い、やさしい気持ちで学校生活を過ごせることができたかと願っています。 ・学校全体で取り組んでいることがわかります。当該児童の理解が深まることを期待します。 ・小中連携、更なる専門性を生かして拡充させていただきたい。 ・学校と家庭との連携がしっかりされていると感じます。 ・配慮→支援→連携、さらなる安心できる環境づくり、教育活動の推進をお願いしたいと思います。
	② 通常の学級と特別支援学級の教育活動の連携の促進	「共生社会」で生きる基盤を培うため、特別支援学級に在籍する児童と通常の学級の児童との交流が充実するような学習・生活場面を積極的に設けることができたか。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の担任と通常の学級の担任の連携のもとに、児童の交流が図られている。 ・必要に応じて特別支援教育について児童に理解させるようにし、お互いの違いを認め合う心情を育てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童が積極的に交流できるよう、安心できる環境づくりを心がける。 		
	③ 子どもの自立支援につながる特別支援教育の推進	特別な教育的支援を必要とする児童の自立の基礎を培うため、児童の特性や個性を把握したり情報を共有したりする体制の整備に努めるとともに、必要な研修を充実させることができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を作成し、それをもとに計画的な指導ができた。 ・特別支援教育部を中心に計画的に研修が生まれ、児童理解や支援方法について理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解を深めるため、児童の様々な情報を集め共有し、組織的な支援ができるように努める。 		
	◎ 家庭との連携	学校と家庭が連携した教育活動を進めるため、積極的な教育相談を行うことができたか。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月に実施される個人面談以外にも、必要に応じて適宜保護者と面談を行い支援に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も連絡帳(赤江っ子ノート)等を活用し、家庭ときめ細かく情報交換ができるようにする。 		

5 防災教育の徹底及び防災体制の整備・充実	① 災害に対する知識と、防災・減災に必要な意欲や態度の調和した防災教育の推進	自然災害や人災・犯罪等に対する適切な知識・技能や実践的な態度を身に付けさせるため、視聴覚資料の積極的な活用など学校行事等の内容の改善・充実を図ることができたか。	3.2	・安全マップ作りを行ったり、避難訓練の前に全校放送でDVD等を視聴させるなど、視聴覚機器等を活用した取組ができた。	・避難訓練以外にも、今後防災教育を授業レベルで積極的に取り入れていく必要がある。	3.6	・登下校の通学路の危険箇所を充実させたいと思います。 ・防災訓練はいざという時のために引き続きお願いします。 ・日ごろから生き抜く力の定着をお願いいたします。 ・訓練が行われていることがわかります。災害が発生したときの判断が決め手になります。先生方の日ごろからの対応力向上をお願いします。 ・訓練を積み身に付けさせることが大切だと思います。 ・防災教育も地域との連携が必要だと思います。今後を期待します。
	② 実際の・実践的な防災訓練の実施による防災・減災体制の整備	防災・減災訓練を実際の・実践的なものとするために、災害等の発生の場面を具体的に想定し、かつ意図的に想定を伏せた訓練を実施するなどして、職員の対応力向上に努めることができたか。	3.4	・地震による津波を想定した保護者への引渡し訓練や予告なしの訓練など、実際に想定した訓練を行うことができた。	・今後、様々なケースを想定した訓練をしていく必要がある。		
	◎ 地域団体との共催	地域団体との共催も今後視野に入れることができたか。	2.6	・引き渡し訓練では、保護者も参加しての避難訓練できた。	・4年生で計画した安全マップ作りのように地域と連携した学習活動をしたい。		

6 家庭・地域に開かれた連携・融合の教育の実現	① 学校の教育活動の課題や成果等の積極的な情報公開	地域の教育力による学校支援を実現するため、学校の教育活動での実績を積極的な広報活動を通じて行い、学校経営の方針や現状を明解にすることができたか。	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学校だよりやそれぞれの学級通信等で情報を公開することができた。 ・ホームページのほかに、Facebookでの情報発信を行い、宿泊学習や修学旅行ではリアルタイムで情報発信ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページには、今後の行事予定等を積極的に掲載し、保護者に活用してもらえるように心がける。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信をもっと多くの方々に見ていただけるようになると思います。 ・開かれた学校を目指してほしい。 ・看護用の車いすの押し方、乗り方に参加しました。勉強になりました。難しかったです。 ・授業や学校行事など、多忙な中で地域に出かけることは、無理を承知で配慮いただきたいです。 ・子どもたちが、どんな地域に暮らしているのかを知って指導にあたってふるさとへの愛着を深めさせてください。
	② 地域の諸機関・各種団体の活動との連携・融合の模索	自らが地域の中の学校としての意識を高めるため、地域の諸団体や諸活動・諸行事の情報を把握し、共有するよう努めると共に、積極的に参加することができたか。	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールでは、様々な地域の団体と連携した学習を計画することができた。当日は台風により中止となったが、後日、学年ごとに計画した内容を実施している。 ・6年生は、赤江ふるさと塾と連携し年間を通じた学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や素材をもっと積極的に活用した授業づくりができるようにする。 ・児童が地域の行事等により多く参加するよう働きかける。 		